

**登米市の新しい図書館を考えるワークショップ
実施報告書**

令和4年 12 月

1 ワークショップの概要

(1) 趣 旨

市民の誰もが利用しやすい、学びと交流の拠点施設として、新たな図書館の整備に向けた検討を進めるに当たり、新しい図書館を市民と共に考え、検討していくために、「みんなで考える新しい登米市の図書館」をテーマとしたワークショップを開催しました。

(2) 日 時

令和4年12月17日（土） 午後3時～4時40分

(3) 場 所

中田保健福祉会館 研修室

(4) 参加者

登米市内に居住又は通勤、通学する方 26名

(10代2名、20代2名、30代3名、40代4名、50代9名、60代4名、70代2名)

(5) ファシリテーター

元秋田県立図書館副館長 山崎 博樹 氏

(6) ワークショップの流れ

- ① ワークショップの概要説明
- ② 各自、次の3点を付箋に書き出し
 - ・自分で考えた又は望む新図書館のイメージ
 - ・そのイメージにあった具体化の方法・手段
 - ・自分は新図書館をどのように使いたい
- ③ 個々の内容をグループでまとめ、3つの要点を3段に分けて模造紙に貼付け
- ④ グループ毎に紹介
- ⑤ ファシリテーターからコメント

2 ワークショップで出された意見

《主な意見》

○自分で考えた又は望む新図書館のイメージ

- ・ 広い図書館
- ・ 明るい図書館
- ・ 子供が好きになる図書館
- ・ 自然を感じる図書館
- ・ 利用しやすい図書館
- ・ 楽しい図書館
- ・ 長居したくなる図書館
- ・ 人や地域とつながる図書館

○そのイメージにあった具体化の方法・手段

- ・ 子供専用の部屋、空間
- ・ 騒いでも大丈夫なゾーン分け
- ・ 登米市の木を使う
- ・ 中高生、大人が学習・調査できるスペース
- ・ 昼食、休憩、気分転換できる空間・設備
- ・ ベビーベットのバウンサー、授乳スペース
- ・ 飲食ができる場所（カフェ）
- ・ 夜まで開いている
- ・ 様々なタイプの椅子
- ・ 活動できる場所や参加型イベントがたくさんある

○自分は新図書館をどのように使いたいか

- ・ 本を読むのは楽しいと感じて親子で過ごせる
- ・ 子供が遊べる、本も読める自由な場所
- ・ 新しい知識や情報を収集したい
- ・ 学習スペースでの勉強
- ・ 朝から夜まで居られる
- ・ 長時間多くの本に触れたい
- ・ ゆっくり読書をしたり、お茶を飲んだりしたい
- ・ 他世代交流して話をする事ができる

Aグループ

新図書館のイメージ	具体化の方法・手段	どのように使いたい
<ul style="list-style-type: none"> ・一日居られる図書館 ・長居したくなる図書館 ・寒いときは暖かく、暑いときは涼しく ・本の香り ・親しみやすい図書館 ・人とつながれる図書館 ・友人とおしゃべりできる図書館 ・子供が好きになる図書館 ・子供が楽しく利用できる図書館 ・一人で自由 ・広い ・発見のある図書館 ・助かったと思える図書館 	<ul style="list-style-type: none"> ・お洒落なカフェ ・ビアガーデン ・学習スペースのほかに、おしゃべりできるゾーンがある ・昼食、休憩、気分転換できる空間・設備がある ・おいしい食事 ・職員さんがいろいろ教えてくれる。話しやすい。雰囲気 ・活動できる場所や参加型イベントがたくさんある ・保育施設がある ・子供がじっくり静かに集中している ・子供がきゃっきゃっできる ・騒いでも大丈夫なゾーン分けがされている ・広い空間がある ・行きやすい場所にある ・運営する人、利用する人、密にならず、かつ集える ・蔵書の充実（新刊） ・専門性と向上心のある司書の常駐 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食をしたい ・朝から夜まで居られる ・日曜日に来たい ・収益が出る。どうすれば・・・？ ・調べたいものの情報を深めたり、そこから他の分野へ広がりをつくりたい ・のんびりしたい ・0歳～100歳の男女が居られる ・みんなと楽しく過ごしたい ・自分の「好き」を活用できる ・温泉好きな夫を連れてこられる ・専門家に相談できる ・仕事、勉強、リフレッシュ ・本を読むのは楽しいと感じて親子で過ごせる ・放課後の子供たちの居場所になる ・新たなつながりを見つけたい（異分野との） ・求めているもの（以上の本）と出会いたい

Bグループ

新図書館のイメージ	具体化の方法・手段	どのように使いたい
<ul style="list-style-type: none"> ・広い図書館 ・広～い（大きな）図書館 ・広い ・ゆったり過ごせる空間 ・小さな子供を連れていきたい ・子供たちが遊べる空間 ・静かに過ごせる ・色んなスペースのある図書館 ・大人のエリア、幼児のエリア、児童のエリアが分かれている図書館 ・長時間居られる（飲食できる） ・仕事帰りに寄れる ・行きやすい ・きれい ・友達と来れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・メジャーなものからマイナーな新聞各紙を揃える ・色んな種類の本を置く ・新刊本を購入チケットで安価で買える ・本に触れさせながら遊ぶこともさせたい ・小さな子供たちも楽しめる ・小さな子供がお話ししても嫌がられない ・テーブルの配置（形の異なるテーブル等々） ・椅子も様々な形状のものがある。ex. リクライニング ・開館時間（日）の変更 ・本を読むこと以外にも展示などなどを見て楽しめる ・静かすぎず会話ができる ・椅子、机だけではなく、直接床（マットなど）に座って読書ができる ・お手洗いが明るい ・自転車で行ける範囲 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったり長い時間をかけて読む ・たくさんの情報を得る ・長時間の滞在 ・観葉植物が置いてある空間でボラ管理 ・知力・体力UP！！ ・同じ体験をしている大人と出合い、コミュニケーションを取れる ・たくさんの絵本を見せたい ・好きな小説の布教 ・カフェで本を読みたい ・自分では検索できなかった資料の紹介などのレファレンスサービスを受けたい ・学習スペースでの勉強 ・家族の迎えを待つ場所 ・日常的に行きたい ・勉強、長期休暇中の大物宿題

Cグループ

新図書館のイメージ	具体化の方法・手段	どのように使いたいか
<ul style="list-style-type: none"> ・新たな発見のある図書館 ・老若男女誰もが集まる図書館 ・利用率を考えた時に人が集まる地域（通勤、通学などで）に建設してほしい ・お互いが気兼ねなく利用できるように閲覧、学習スペースを離してほしい ・図書館としての機能を充実させるために既存の施設の再利用はやめてほしい（施設の耐用年数） ・試験勉強や学校の課題（本など）を利用する調べものなど）を行える図書館 ・本を気軽に読みたい ・たくさんの本を読める図書館 ・落ち着いた図書館 ・自然を感じる図書館 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなイベントがある（催し） ・飲食ができる場所（カフェ） ・話ができる空間がほしい ・米の試食会（米の歴史展） ・自動貸出機があればいいと思う ・遊び場がある ・学習などで利用できるスペースを広くとってほしい（一関図書館のイメージ） ・学習スペース ・無料Wi-Fi ・蔵書が多い ・専門書がある ・外国の本 ・交通の便がいい ・通いやすい雰囲気（図書館） ・ネットで予約（本）ができる ・市バスが通るように ・庭園を散歩 ・アート作品などもある ・ちょっと腰かけるソファが多くある 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館に行って新しい知識や情報を収集したい ・様々な知識を得たい ・ゆっくり読書をしたり、お茶を飲んだりしたい ・長時間多くの本に触れたい ・開館時間を長くしてほしい ・一人で集中して課題に取り組める ・興味を持った分野で深く知ることができる ・習い事、店を知ることができる ・各地区、公民館などで行われている〇〇会など作品や発表会や体験会など持ち回りで行っていても楽しい ・登米市出身の大友克洋先生の紹介コーナーなどを作ってほしい（活躍している方々のスペースを確保） ・好きな著書・著者を好きな者同志が集まって語り合う場があればと思う ・誰かの一つの本について話し語りの会があっても面白い。聞きに行きたい

Dグループ

新図書館のイメージ	具体化の方法・手段	どのように使いたいか
<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりした空間 ・広い（空間のある）図書館 ・充実したインターネット環境 ・自然光（眩しくない）の入る明るい図書館 ・森のような雰囲気 ・家族で来られる ・子供が本に親しめる ・子育て中のお母さんが行きやすい図書館 ・交通機関が便利（公共） ・立ち寄りたくなる ・利用しやすい ・ガヤガヤと静かなスペースが分かれている ・来たついでに情報を簡単に集められる ・庭のある図書館 ・楽しい図書館 ・田園風景 ・緑が多い ・外の風景が自然豊かで癒される 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食 ・くつろげるカフェ ・カフェと静かに勉強できる空間が別々 ・駐車場からあまり遠くなりすぎない ・夜はプラネタリウム ・天井に何か飾る ・紙飛行機飛ばす ・Wi-Fi や充電のできる場所 ・ネットカフェのような個室 ・仮眠 ・観葉植物（造花でも）、音響も ・香り ・窓は大きすぎず ・誰でも利用できる ・子供専用の部屋、空間 ・ベビーベットやバウンサー、授乳スペース ・本を返せる場所が図書館以外にもある ・子供達が多少騒いでいても、他に影響ないように ・少数派、多様な人に対応できる ・文字を読むことに難しさのある人のための部屋 ・多様なニーズに応えられる ・背のある椅子、ない椅子が両方ある。いっぱい ・大人、子供利用ブースが分かれている ・夜まで開いている ・外遊びができる ・中庭があるといい ・外でも本が読めるといい ・遊具がある ・廊下を広く作ってイベントができる ・町と自然豊かな所とのボーダーに作る ・土のにおい ・カエルの鳴き声 ・ご飯の香り 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな劇場、空間 ・星の観察 ・本や自分のスマホ、パソコンを使いながらゆっくり調べ物がしたい ・研修室的なものがある（サークル等で利用） ・個室 ・座って読めるブース ・映画 ・ネットで予約できる ・ネットで読みたい本のリクエスト ・子供のための読み聞かせに大人も参加したい ・外国の人が必要な情報を得られるコーナー ・ファシナシオンや演劇的方法 ・マンガ本やCDを借りたい ・小さい子や赤ちゃんも連れていきたい ・子供が遊べる、本も読める自由な場所 ・時には託児あり（ボランティア等の利用） ・ワークショップができる ・文字を読む手助けをする専門家やボランティアの配置 ・イベントの開催 ・お泊りで何冊読んでもOK（小学生） ・砂場、ベンチ、広場 ・天気の良い日は外でも読める ・外でのイベント ・土いじり ・カエルの観察 ・米を炊く

Eグループ

新図書館のイメージ	具体化の方法・手段	どのように使いたい
<ul style="list-style-type: none"> ・中央にある図書館 ・すぐ近くにある図書館 ・利用しやすい施設 ・広く明るい図書館 ・自然光が入る図書館 ・ご飯がすすむ図書館 ・発想が広がる ・自由な雰囲気 ・開かれた図書館 ・「わざわざ向かう！」と思わず、フラッと立ち寄れる図書館 ・話がしやすい図書館 ・様々な年代の人々が集える図書館 ・子供が来なくなる ・学べる ・ボランティアが多い図書館 ・地域とつながる図書館 ・いろいろな地域にある図書館 ・民間イベントの多い図書館 ・楽しめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・古い資料を残せる大きい書庫を作ってほしい ・木造り、地産の ・登米市の木を使った図書館 ・今ある施設を活用する ・公民館のリフォーム ・Wi-Fi 完備 ・照明が明るい ・庭があって芝がある ・公民館や移動図書館 ・大きいのは中央に1つ、公民館に分館（利用の多いものだけでも） ・窓を広くした建物 ・学校や人の集まる場所の近くにある ・靴を脱げる図書館（幼児が歩きやすく） ・郷土史コーナーの充実 ・図書館の使命として郷土の歴史を残す ・公民館にも司書を配置 ・静か？って必要？ ・子供が遊べるスペースも ・女性が主体的に作る ・中高生、大人が学習・調査できるスペース ・学校図書館との連携 ・バリアフリーの図書館 ・乳幼児がはって歩けるスペース（畳、絨毯） ・時間を長くしてほしい ・公園の代わりになること（1階が図書館で2階が公園（人口芝）、バーベキューができる） ・カフェがあるといいな ・カフェがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・家にはない大きなソファで横になりたい ・マルシェが多く日常にある ・北上川を学ぶ講座 ・農業活性化講座 ・中高生が主催するイベント ・郷土史家にボランティアに集ってもらう。郷土史の充実 ・子育ての相談ができるといいな ・子供の送迎の時に家で読む本を自分たちで選びたい ・地元の歴史を伝えるイベント ・歴史、自然を学べる ・移動図書館の来る時にイベントがある ・多世代交流イベント ・お泊り会 ・井戸端会議 ・公園の代用（バーベキュー、ボール遊び） ・じいさん、ばあさんから昔語りを聞いてまとめる ・他世代交流して話をする事ができる ・友達とゆっくりコーヒーを飲みながら話したい ・ビアガーデン

Fグループ

新図書館のイメージ	具体化の方法・手段	どのように使いたいか
<ul style="list-style-type: none"> ・行きたくなる図書館 ・にぎやかな図書館 ・明るい図書館 ・楽しい図書館 ・子供が伸び伸び過ごせる ・来やすい図書館 ・ゆったりと調べ物ができる図書館 ・地域交流が活発にできる図書館 	<ul style="list-style-type: none"> ・学べる場 ・公園がある。外でも読める ・オーディオ本 ・遊べる場。声だしOK ・ワークショップスペース ・新しい本がいっぱいある図書館 ・外でちょっとくつろいだり子供たちが遊べるスペースがある図書館 ・カフェ ・手ごろなお値段で飲食ができる cafe がある図書館 ・ソファ ・長居できるような様々なタイプの椅子が置かれた図書館 ・大人も子供も老人も一緒に空間で本を楽しめるような図書館 ・絵本がいっぱいある ・赤ちゃんや子供に優しい ・おむつ替え、授乳スペース有り ・体験できる ・夜も開いている（19:00 頃まで） ・夜の学習 ・高校生が気軽に立ち寄れる図書館 ・利便性の良い図書館 ・伝承・民族資料 ・データベースを数種類契約して希望者が自由に閲覧できるような図書館 ・市内や県内、東北地方の郷土史が学べる場 ・子供も大人も読みたい本をすぐに見つけられる図書館 ・勉強の場として今よりも便利な図書館 ・地域の交流が盛んな場 ・困ったときに知りたい知識がある ・悩みコーナーと答えコーナー ・サークル活動などに利用できるような集会室、会議室が複数ある図書館 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーヒー飲みながら読書 ・子供を放して親が読書 ・貸出冊数を無制限にする（日本国民であれば誰でも） ・ファミリーコンサート（子連れで楽しめる） ・民話を聞く会 ・絵本作家講演会 ・絵本作家のワークショップ ・開館時間を延長する ・職員の充実（正規の司書をたくさん） ・地域資料の収集・充実（オンデマンド等も） ・”お悩みボード”などを作って市民同士の交流がしたい ・読書サークルなどつくってみたい ・”おすすめ本”を紹介するコーナーをつくる ・高校生、放課後たまり場 ・情報交換 ・趣味の合う人と交流

3 ファシリテーターのコメント

- ・カフェの要望はよく出てくるが、運営は結構難しい。廃業も多い。
- ・にぎやかな場所と静かな場所、飲食ができる場所とできない場所、いろいろな方が満足できるゾーニングが必要である。
- ・図書館員は住民が鍛えていくもの。住民が要求しなければ鍛えられない。
- ・図書館は広すぎてもコスト的に合わない。積算方法があるので適切な面積はある程度しっかり導き出せる。
- ・子供だって大人だって寝転がりたい。長く居てもらうにはそういうスペースも必要になる。
- ・日本間を作るケースもあるが、堅苦しすぎてあんまり使われない。
- ・従来と学習の仕方が変わってきている。昔は1人だったが、今は友達と一緒に話し合い、教え合いながらになってきている。それに対応できるフレキシブルな空間が必要である。
- ・今、中高生が来られない図書館が多い。図書館に語らえる場所がないからである。スポーツクラブ入っていなければ、地域の中に居場所ない。図書館がそういった人たちの居場所になるといい。
- ・地域出身の偉人の方、これは大事である。石ノ森章太郎、大友克洋、そういった方のコーナーを作るのは当然である。
- ・あまり知られていなくても地域に貢献した方、世の中に貢献した方がいるはずである。そういった方々を次世代に伝える役割として、図書館は地域資料を持っていなければならない。
- ・ソファは、1人用も2人用も4人用も6人用も必要。使い方がみんな違う。最近の図書館は、席の構成をたくさん作る。場合によっては、少人数用の囲われた小さな部屋を作ったりもする。
- ・田園風景は借景に使えるかもしれない。民家に近すぎると使いづらいし、せっかくの登米市らしさ消えてしまう。周りの空間は少し考えた方がいい。
- ・最近図書館以外の広いスペースを作ることが多い。そこで様々なイベントをやったり、展示をしたりすることが普通になってきている。
- ・遅くまで図書館を開くということは、そのまま人件費に跳ね返ってくる。人がいなくても運営できる工夫が必要である。
- ・図書館は、ただ本を見る場所から、もっとアクティブな場所になってきている。それが今住民の望む一つの姿である。
- ・本もあれば、それをナビゲートしてくれる職員もいる。やりたいことができるイベントスペースもあって、一日過ごせる場所もある。それができて、初めて図書館を建てる意味が出てくる。
- ・ワークショップで出された意見全部は難しいと思うが、なるべく叶えられるような施設を目指さなければいけない。高い理想を掲げても、実現できるのはそ

- の8割にも満たない。だからこそ図書館を作るならトップの目指すぐらいの気概を持たなければならない。
- ・建物にお金をかけることについては反対である。メンテナンス費用など後世に影響。豪華な建物は必要ない。
 - ・本当に使いやすい図書館は、建築費も安く、メンテナンスもしやすく、効率的で、動線もいい図書館。案内がいない図書館というのが一番いい。
 - ・木材が産出されるのであれば木造も視野に入れるべきである。地域産材の活用は最低限考えなければいけない。
 - ・イベントは間違いなく図書館員の負担になる。すべてのエネルギーをイベントに使ってしまうと肝心な本の部分が疎かになってしまう。そのため、市民の協力が必要となってくる。
 - ・講演会などはあえて東京から人を連れてくる必要はない。今は地域の方が話すイベントが主力になっている。
 - ・開館時間については、いろいろな方法論がある。特定のエリアを夜中もオープンにしてしまうと、ICTを活用して閉館後も借りられる予約棚の設置などは全国的に普及している。
 - ・夜7時までの開館はささやかな要望である。最近では、8時、9時まで開館している図書館もある。ただし、この地域ではそこまでは必要ないと思うが。
 - ・授乳室や乳幼児用トイレの設置は当たり前である。新しい図書館であれば必ず作っている。年代別のバリアフリー、性別のバリアフリー、これは当然やらなければならないことである。
 - ・どのグループもとても素晴らしい発表だった。図書館員を集めたワークショップと比べてもあまり変わらない。それくらいレベルが高かった。
 - ・来年以降もこういったワークショップの機会があれば、目指すべき図書館がより具体化されてくると思う。
 - ・新しい図書館をどのように使っていくか考えるのは図書館ができてからでは遅い。今のうちから議論していくことが大切である。
 - ・登米市の魅力をたっぷりつぎ込んだ図書館を是非皆さんで協力しながら作り上げていてもらいたい。

4 ワークショップの様子



5 参加者名簿

No	氏名	住所	年代	性別	グループ	備考
1		迫	40代	女	A	
2		迫	50代	女	A	
3		登米	50代	女	A	
4		中田	70代	女	A	
5		迫	10代	女	B	
6		迫	40代	女	B	
7		美里	50代	女	B	
8		南方	60代	男	B	
9		津山	10代	女	C	
10		南方	50代	女	C	
11		南方	60代	男	C	
12		迫	70代	女	C	
13		迫	20代	女	D	
14		中田	50代	女	D	
15		南方	50代	男	D	
16		南方	50代	女	D	
17		迫	60代	女	D	
18		迫	30代	女	E	
19		米山	30代	男	E	
20		南方	40代	女	E	
21		登米	50代	女	E	
22		登米	60代	女	E	
23		迫	20代	男	F	
24		中田	30代	女	F	
25		南方	40代	女	F	
26		迫	50代	女	F	